

日本物理学会領域 2 役員会議 議事録案

日 時：2025 年 3 月 18 日(火) 17:30－19:00

場 所：Zoom によるオンライン

参加者（敬称略）：長崎（司会），比村，江尻，佐々木，三瓶，菊池，徳澤，松山，安部（書記），岩田，大石，川面，

報告・議論事項

- 1) 2025 年 4 月からの役員体制・役割分担
- 2) 新役員の推薦と領域代表，領域副代表の候補について
- 3) 第 79 回年次大会（2024 年秋）学生優秀発表賞に関する報告
- 4) 若手奨励賞[第 19 回（2025 年）]に関する報告
- 5) 第 80 回年次大会（2024 年秋）シンポジウム・招待講演等の提案
- 6) 領域委員会報告
- 7) 領域 2 での確認事項
- 8) 講演件数の推移
- 9) 講演概要集提出率
- 10) その他

報告・議事内容

- 1) 2025 年 4 月からの役員体制・役割分担について

役員体制・役割分担を確認した。代表・副代表・前代表のみの変更。

領域代表：比村 治彦（京都工芸繊維大学）

領域副代表：江尻 晶（東京大学）

領域前代表：長崎 百伸（京都大学）

役員：佐々木，三瓶，菊池

運営委員：徳澤，松山，安部，岩田，大石，川面

- 2) 新役員の推薦と領域代表，領域副代表の候補について

2025 年 10 月からの領域役員（2025 年 4 月から領域運営委員）の推薦。

次期領域役員：辻井 直人さん（東京大学）

次期領域役員：金 史良さん（京都大学）

次期領域役員：古賀 麻由子さん（兵庫県立大学）

今年 10 月中旬に 2026 年度の領域代表・副代表を推薦する。

3) 第 79 回年次大会 (2024 年秋, 北海道大学) での受賞者

応募者 31 名の中から, 以下 5 名を選出.

◆ 玉城 直也 (阪大工院)

「金積層グラフェンターゲットを用いたレーザー駆動単色陽子加速の最適化」

◆ 山田 悠斗 (名大工)

「NUMBER における間欠的な浮遊電位揺動発生時のイオン温度のガス圧依存性」

◆ 吉村 溪河 (東北大工)

「水素原子・分子線計測および衝突・輻射モデル解析による基底状態水素原子密度評価」

◆ 加賀谷 重考 (東北大工)

「Retarding field analyzer を用いたイオン温度計測に対するイオン流の影響の検証」

◆ 古田原 拓実 (日大生産工)

「ケルビンヘルムホルツ乱流におけるデータ駆動的手法を用いた突発粒子輸送解析」

4) 若手奨励賞[第 19 回 (2025 年)]に関する報告

今回は 1 名の応募. 選考委員は 6 名.

昨今, 応募件数が少ないのが問題 (前回 2 名, 今回 1 名). 今後何らかの対策が必要か.

受賞候補者: 武村 勇輝 (核融合科学研究所)

研究題目: 「磁場閉じ込め核融合プラズマにおける磁気島を伴う MHD 不安定性制御に向けた研究」

選考委員: 千徳 靖彦 (委員長), 比村 治彦 (副委員長), 古川 勝, 神吉 隆司, 龍野 智哉, 岡本 敦

5) 第 80 回年次大会 (2025 年秋) シンポジウム・招待講演等の提案

企画セッション (提案 1 件), 招待講演 (提案 0 件) を運営委員会で周知する.

(企画セッション)

提案者: 小林 達哉 (核融合科学研究所)

テーマ: 「プラズマサイエンスの 10 課題と学際発展の展望」

- ・ 企画セッションは領域 2 が独自に開催. 1 テーマにつき春秋合わせて全 4 回実施.
- ・ 同時に設けられる企画セッションは 3 件以内. 同一年内に新規採択する企画セッションは 2 件以内.
- ・ 新規企画の開始時期については要検討. 現在進行中の企画「メタ階層」は第 80 回年次大会まで開催予定. プログラム編成の手間や講演者の分散を考えると, 新旧企画の同時開催は避けた. したがって, 第 80 回年次大会は「メタ階層」, 2026 年春季大会から新規企画を実施する方向で, 領域代表から新旧企提案者に意向を確認する. ま

た、運営会議でも審議する。

(招待講演・シンポジウム)

締切日を確認した上で、再度 PlasmaML に募集案内を出す。運営委員からも周囲に声掛けをする。

6) 領域委員会報告 (2024 年 12 月 9 日, オンライン開催)

(報告事項)

- 大会運営委員会(仮名)の新設と今後の大会開催方法について
- 講演申込等のスケジュールについて
例年より 1 か月程度後ろ倒し
- 2025 年春季大会 理事会企画・記念講演・領域企画提案の採択
シンポジウム講演については, 3 時間半を超過する提案は理由書の提出を条件に採択。情報不足の提案についても補足情報の提出を条件に採択。
- 講演概要の英語化について
領域によって温度差はあるものの, 全体としては否定的。
- 計算物理領域の新設について
新設の意義はあるが, 賞の審査やプログラム等, 既存領域の負担が増えないよう配慮が必要であることを確認。今後は理事会に仮領域として新設を答申。
- 計算物理領域の試行について
 - ・ 第 80 回, 第 81 回, 第 82 回年次大会で試行(春季大会では開催なし)。
 - ・ 既存領域の講演数が減らないよう, 新領域は全て合同セッション扱いにする。
 - ・ 試行期間中は若手奨励賞・学生優秀発表賞の受賞を行わない。
ただし, 領域 2 の学生が合同セッションで発表する場合は, 領域 2 から審査員を派遣しなければならない。
 - ・ 「高性能計算」, 「計算アルゴリズム」, 「データ駆動科学」の 3 テーマについて, 合同セッションの参加有無を各領域で審議。4/3 までに事務局に連絡。

(領域 2 役員会での審議事項)

計算物理領域との合同セッションについて

- ・ 複数のテーマを合同セッションにすると, プログラム編成や学生賞審査員の割り振りが困難になる可能性あり。
- ・ 現時点では, 領域 2 に計算物理領域のどのテーマに参加希望者がいるのか不明。運営委員会で周知して参加希望アンケートを実施。3 月中に臨時役員会を開催し, アンケート結果を踏まえて合同セッションへの参加を審議する。
- ・ 徳澤委員がアンケート作成を担当。

7) 領域 2 での確認事項

以下の事項について確認した.

- Plasma メーリングリストの運用
- 学生優秀発表賞
- シンポジウム, 招待講演
- シンポジウム等での online 登壇

8) 講演件数の推移

第 79 回年次大会 110 件, 2025 年春季大会 82 件で減少傾向. 対策の検討が必要.

- ・ ポスターセッションの開催, 表彰の副賞を充実させる, 重複登壇を認めるといった提案が上がるも, あまり現実的ではないか.
※ 現状, 年次大会は複数登壇不可 (シンポジウム・招待講演等の依頼講演を除く).
春季大会(2025)は「1 人 3 件まで登壇可能」.
- ・ 核融合研や量研機構など, 大口の研究機関に参加を打診する.
- ・ アジア太平洋物理学会議 (AAPPS-DPP) などの国際会議と日程が近いのも問題. 特に, 第 80 回年次大会は慣性核融合の国際会議 (IFSA2025) と日程が丸被り.

9) 講演概要集提出率

領域 2 の概要提出率は 80/82 (97.5%). 他領域と比較して特に問題ない.

10) その他連絡事項

- NIFS 一般共同研究の申請
次年度の申請は行っていない. (共同研究申請しなくても領域 2 のメーリングリストや HP の管理が可能になったため.)
- 80 周年記念国際シンポジウムの開催
日本物理学会誕生 80 周年記念行事として第 81 回年次大会の前日 (2026 年 9 月 13 日) に国際シンポジウムを開催.
- オンライン大会でのポスターセッションの形式変更
現行のポスターセッションに代わる新形式の導入を検討. 領域 2 ではポスターセッションを開催していないので, 特に審議しない.
- 同時翻訳字幕機能の導入について
2025 年春季大会で Zoom の同時翻訳字幕機能を試験導入. 運営委員は大会期間中に使い勝手を確認. 3 月末の臨時役員会で審議し, 事務局に報告.

以上